

河川に流出する水稲用除草剤の実態調査

環境省は、農薬の使用に関する「人の健康・生態リスク」を適切に管理するため、河川水に含まれる農薬成分の実態調査を行っています。

京都府も令和2年度からこの事業に参加しており、主に南丹地域の保津川、犬飼川及び園部川流域で使用される水稲用除草剤を調査対象としていますが、昨年度までの結果は基準値を大きく下回っていました。

今年度は対象をブタクロール及びプロモブチドの2成分とし、4月から7月までの4か月間、適切な農薬使用のためのモニタリングを行うこととしています。



緑化センター施設開放・桜花祭

当センターでは、毎年4月の桜の開花時期に地元実行委員会(ときめき会)有志によるしだれ桜のライトアップが実施されるなど、大勢の一般来訪者が訪れます。今年も、3月30日に開花宣言となり、都市と農村の交流を目的に、ときめき会主催のお花見会「桜花祭」が、4月9日(日)に3年ぶりに開催されました。

当日は、夜久野高原の一角で桜の名所となっている当センターを主会場に、午前10時から模擬店やイベントが幕を上げ、琴演奏、和太鼓、フラダンスや歌謡ショーなどが午後5時まで続きました。近隣市町のほか遠方では姫路方面からと約1000人の来場者数となりました。

今後も地域に根ざした施設として、林業用樹木の育種及び優良種子の配給並びにその試験研究とともに緑化啓発を業務とする当センターの機能継承と発展が地域とともに進んでいくことが望まれます。



来場者の様子



琴演奏の様子

3年ぶりの開催
春のひと時を夜久野高原で

桜花祭

2023
しだれ桜お花見会

夜久野高原

4月9日(日)

場所 京都府緑化センター

▶ イベント
10:00～17:00 模擬店 (宮の台・ときめき会・他)
▶ タイムテーブル
10:00～ 和太鼓 (ほれいもごDON太鼓)
 谷田間晃ギターハーモニカ演奏
11:30～ フラダンス (Haku Ka Haku Lani O Ka La)
12:00～ 金山ゆいライブ
12:45～ 福知山通り米唄協賛会・真琴会琴演奏
13:30～ 田中恵美ライブ
14:00～ フラダンス (Haku Ka Haku Lani O Ka La)
 真琴会琴演奏・歌・他
※雨天中止の懸念があります

ライトアップ
4/2日
4/15日

～遊花情報は4月1日より毎日更新中～
▶ Facebook 【夜久野高原】毎日更新
▶ 開催式及びイベントお問合せ
ときめき会 TEL090-4890-9011(平日 夜久)
▶ 来場お問合せ
京都府緑化センター TEL0772-38-0006(月～金)
 小いの高原 TEL0773-58-0343(16:00～17:00)
 福知山観光協会夜久野支部
 19夜間夜久野北原TEL0773-37-1100(月～金)
▶ 会場 上つめ及び下つめ公民館
 協力 京都府緑化センター
 福知山観光協会夜久野支部

※地図は概略図です。詳細は開催当日の案内図をご覧ください。
〒690-0141 京都府 夜久野 夜久野高原 夜久野高原 夜久野高原 夜久野高原

開催案内チラシ

農林センター(森林技術センター 緑化センター)

ナシ「甘太」の花芽調査を実施

ナシ「甘太」は9月下旬から10月上旬にかけて収穫できる甘くて適度な酸味もある食味の非常に良好な品種であり、丹後地域では「二十世紀」の後に収穫できる品種として栽培面積が増えています。しかし、現地での「甘太」の栽培が増える中、花芽の着生が不安定という問題が発生しており、生産者から解決策が求められています。

4月6日に京丹後市の久美浜町大井団地および網野町郷団地で「甘太」の開花状況を調査しました。その結果、外観上、花芽に見えますが、花が咲かず葉しか出ない芽が確認されました。

今後、どのような枝に花芽の着生が少なくなるかを分析し、対応策を検討していきます。



外観上、花芽に見えるが葉しか出ない芽



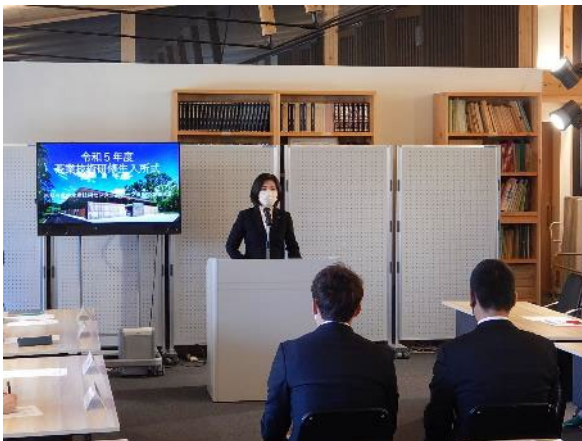
正常な「甘太」の開花

令和 5 年度茶業技術研修生入所式

当所では、茶生産農家と茶流通業者の後継者を対象に、宇治茶業界を担う人材を育成するため、大正 14 年から本研修を実施しており、現在までに 201 名の研修生を現場に送り出しています。

令和 5 年度は、入所式が 4 月 11 日に開催され、宇治市、南山城村から各 1 名の計 2 名が入所しました。1 名は生産農家、1 名は流通業者の後継者です。

研修生は、当所職員の指導を受けながら、1 年間のほ場実習、製茶実習、講義カリキュラムを通じて、茶業経営の技能の習得に努めるとともに、就農、就業後に直面する課題を想定し、1 人 1 課題のプロジェクト研究に取り組みます。



所長の式辞を聞く研修生



入所にあたり宣誓する研修生

令和 5 年度製茶技術研修会

当所ではお茶の技術普及を行う普及指導員を対象に、製茶期を目前に控えて、製茶技術の基本習得を目的に研修会を開催しています。

今年は 4 月 18 日に開催し、京都府内から集まった普及指導員など 8 人に対して、当所が講義を行いました。受講者たちは製茶指導年数別に研修の獲得目標について理解した上で、2 班に分かれて、工場で説明を受けながら実際に製茶作業を行いました。最後は自分たちで製茶したお茶の香り、見た目、味などを審査し、製茶作業を振り返りました。

受講者からは「実際に体験したことにより、生産者目線でどういった点に気をつけながら作業をするべきか理解できた。今後、この体験を普及活動に活かしていきたい。」などの声が聞かれました。



製茶に関する講習を聞く受講生



実際に製茶しながら説明を聞く受講生

カブの病害に対する抵抗性を調べています

当センターでは、京野菜を含む京都府産農産物の消費拡大につなげるため、品目の拡大や調理法の簡便化を目指して、京都生まれの物語性等を備えた紫や赤色等の小カブの新しい品種作りに取り組んでいます。

現在、カブを含むアブラナ科植物の「根こぶ病」※に対する抵抗性を調べています。根こぶ病の菌を含む土で植物を栽培して、発病程度を調査しています。あわせて植物のDNAも調べ、発病程度と比較することで、根こぶ病に強い個体を選抜することが可能になり、品種育成のスピードアップを図ることができます。

今後は、抵抗性の調査結果から、抵抗性に関わる遺伝子を探索する予定です。

※ 根こぶ病:アブラナ科作物の根に異常な肥大(こぶ)を生じて、生育阻害や枯死を引き起こす防除が難しい病害です。



根こぶ病菌への抵抗性の調査

(左) 根こぶ病の菌を含む土をポットに詰めている様子。

(中央) 植物の生育の様子。約40日後に植物を掘り上げ、発病程度を観察します。

(右) カブ幼苗での根こぶ病の症状。発病すると、カブの下側とひげ根が異常な形に肥大します。

府内で給与されている稲発酵粗飼料の実態調査を実施

府内の稲発酵粗飼料(稲 WCS)生産は平成 12 年頃から始まり、令和 4 年には生産面積が 124.8ha まで拡大しています。また、購入粗飼料価格が高止まりしている中、粗飼料としての重要性はさらに増すものと考えられます。しかし、稲 WCS は品種や収穫する熟期が様々であり、それによって栄養価も変化する可能性があることから、実態調査を行いました。

府内で給与されている稲 WCS 25 検体(乳用牛 11 検体、肉用繁殖牛 14 検体)について栄養成分や発酵品質を調査したところ、食用品種と飼料用品種との間には含まれる栄養成分や発酵品質に大きな違いはないが、収穫時の熟期が早いとタンパク質含量が増加することが確認できました。

今後はこの実態調査の結果を生かした稲 WCS の早期収穫を目指したタスクチーム活動や乳牛への給与試験を行う予定です。



写真上 稲 WCS の収穫・調製、下 調査に供した稲 WCS

宮津湾のナマコ資源状況を調査

宮津湾のナマコ漁業では、資源を保護し持続的な漁業を達成するため、漁業者による自主的な資源管理が実施されています。当センターでは、資源管理に必要な資源状況調査を漁業者と共同で行い、得られたデータの解析結果から、より適切な資源管理方法を漁業者に提案しています。

令和4年度漁期(令和5年2月1日～3月16日)終了後の3月28日に、当センター研究員が5隻の漁船に乗船し、ナマコの資源状況を調査しました。同調査結果から、調査時(漁期終了時)の資源量は約25トンと推定されました。漁期中の漁獲量は約10トンでしたので、初期資源量は約35トン、漁獲率(漁獲量÷初期資源量)は約28%となります。漁獲率の値は当所が漁期前に提案した値(30%)以下であり、適切な漁業が実施されたと判断できました。

今後、データを詳細に解析し、令和5年度漁期の適切な資源管理策を漁業者に提案予定です。



資源状況調査で採捕されたナマコ



ナマコの測定